

大津市プラスチックごみ削減勉強会 2025 年 活動報告

報告者：松村順子

1. 勉強会

- | | | |
|-----------------------|---------------------|-------|
| ①2月21日(金)午後13時～16時 | (子どもプラごみ体験教室のリハーサル) | 参加：7名 |
| ②4月25日(金)午前10時～12時 | (新年度の活動方針についての話し合い) | 参加：8名 |
| ③6月6日(金)午前10時～12時 | (エコフェスタの出展内容の確認など) | 参加：8名 |
| ④7月18日(金)午前10時～12時 | (エコフェスタの景品づくりなど) | 参加：7名 |
| ⑤8月29日(金)午前10時～12時 | (鍵谷氏講演会の報告) | 参加：7名 |
| ⑥10月31日(金)午前10時～12時 | (当会主催のシンポジウム開催準備) | 参加：8名 |
| ⑦12月9日(火)午前10時30分～13時 | (シンポジウムの抄録など印刷準備) | 参加：2名 |

2. 見学会

①ケミカルリサイクル工場見学会(3月9日(日)) 参加：7名

湖南省高松町にある「ミタカホールディングス(株)」の工場見学をした。2024年9月に開催されたMLGs協働テーブルの分科会で、ミタカホールディングス(MTK)の三峰社長の会社紹介のプレゼン「人と地球を笑顔に」「資源を埋めない、燃やさない」をモットーとして、ケミカルリサイクルを推進しているとの話を聞いたことがきっかけだった。工場見学は、MTK主催で毎年開催されている「ワークショップ」に参加することで実現した。はじめに、海ごみの現状からリサイクルの現状、MTKの取組などが紹介された。女性の社長さんの澆刺とした挨拶、主催者側の案内には県立大の学生さんたちもいて、廃棄物処理やプラごみのリサイクルの話の中に、若さや情熱が感じられた。その後の見学で、缶類・小型家電なども扱っている、きれいに整頓された工場内が丁寧に案内された。ここで処理されるプラごみとしては、一般廃棄物のプラスチックや容器包装プラスチックではなく、事業系廃プラスチック(薬シート、梱包シートなど)で、分別して洗浄、熱で圧縮し水で冷却し固形燃料(RPF)にする過程を見学した。想像していたケミカルリサイクルのそのものではなく、プラごみを固形燃料(RPF)にして、製紙会社に販売する過程を担う工場であった。



②大戸川ダム建設工事現場見学会(5月19日(月)) 参加：3名

琵琶湖河川事務所が、毎年行っている琵琶湖ゼミナールの一環として、工事を着工した大戸川ダ

ムの建設工事現場の見学会が開催され、びわの会をつうじて当会にも声がかかり参加した。工事用に建設された眺望抜群の取り付け道路から、30 年前にダム建設のために集落ごと移転した「大鳥居村」の荒廃した跡地でダムの話を聞き、地質調査をしている横坑の坑道に入って断層や補強コンクリート実証実験などを見せてもらった。



環境破壊といわれるダムだが、この大戸川ダムは日本では珍しい通水型ダムとして期待されている。ダムの竣工は8 年後くらいになるそうだ。地元住民の犠牲や莫大な費用をかけたダムだからこそ、これからの気候危機の災害から人々の命と暮らし、生き物を守ることができることが期待されていると実感した。



断層 →

③ペットボトルリサイクル工場見学会（6月20日（金））参加：7名

ペットボトルリサイクルの中で、全国7か所にあるボトル to ボトルのリサイクル会社、滋賀県湖南市にある（株）豊通ペットボトルの工場では、大津市を含め滋賀県下の3分の1の市町村のペットボトルを処理している。2023年以降、販売されるペットボトル飲料の3本に1本はリサイクルボトルということやペットボトルの有効利用率が98.6%になっている話に驚いた。広い敷地内には、全国から集められた事業系ペットボトルが山積みとなっており、市町村が回収したペットボトルのベールと比較してもその量と状態に大きな差が感じられ、搬入される事業系ペットボトルには重量のある異物が混入されていることもあるという。事業系ペットボトルと家庭系ペットボトルはそれぞれ別の棟で洗浄・破碎処理によりフレークになり、次に衛生管理がされた棟でペレットとなり、ペットボトルの原材料ペレットは豊通からボトルメーカーや飲料メーカーに売却されている。その後、それらのメーカーでプリフォームに成形し、リサイクルボトルに再生されるという。分別されたキャップはパレットになり、ラベルは産廃処理されるという。



工場見学前の説明会では、ペットボトルのリサイクルの現状や課題について話をきくことができた。ボトル to ボトルの水平リサイクルは、市町村などと豊通による独自ルートで進められ、リサイクル費用は豊通負担による。現在増えている独自ルートでのボトル to ボトルでは、2030年には、2本に1本をリサイクルボトルを目指しているそうだ。だが、海外から年間約100万t輸入されるペットボトル原材料価格が安いと、技術の問題ではなく、リサイクルボトルはバージンボトルの1.5倍の値段になってしまう。廃ペットボトルが業者間で取り合いのため、回収率を高めることも課題となっているという。



粉碎されたペットボトルキャップ



工場内の様子



3. 子どもプラごみ削減体験教室（3月15日（土））13：30～15：30 スタッフ参加6名

大津市・草津市の小学生17名が参加。

SDGsの視点と3Rの啓発を主軸に、プラスチックごみを減らすために知って考えてほしいことを中心とした内容とした。参加した子ども達が、プラスチックの基本知識から、プラスチックを有効に利用しプラごみを減らすための自分の考えや意見を自由に発表できる場づくりをめざすことを目的とした。

内容としては。第1部は《プラスチックを悪者にしないために、知っておきたいこと》として、実践室にて、プラスチックの種類と特徴の話 ②各プラスチック違い見つける演示実験（それぞれの比重と燃焼の観察）第2部は、《ワークショップ》交流スペースにて

①プラごみスピードクイズに挑戦 ②3Rで行動を考えてみよう ③ポイ捨てプラごみゼロのまちづくりのために「私のプラごみ宣言」を考え発表した。



この体験教室で初めて出会った子ども達同志でも、和やかな雰囲気の中で活発に発言する様子が見られた。終了時のアンケートでは全員が回答を寄せてくれて、「学校では体験できないことや知らなかったことが分かった」「面白かった」とあった。また、これからの行動につながる「私のプラごみゼロ宣言」も全員からの宣言が集まった。

今後も、内容と時間配分を精査して、プラスチックの基礎知識やプラごみを減らすための啓発として、子ども達と一緒に未来に向けて考え行動するために、プラごみ削減体験教室にも力を入れたい。



4. 啓発活動

①平和堂「びわ湖の日イベント」(6月29日) 参加：5名

「プラごみSDGsスピードクイズ」を出展。

子どもを連れた家族連れなどが立ち寄ってくれて、74名の参加があった。



初めてスクリーン・プロジェクターでパワーポイントを使ってクイズを展開した。SDG s と 3 R の行動に関わる問題を20問、参加者はAとBの札の2択で回答。会場が賑やかな店舗のため、マイクを使用し出題するクイズの音が届くように工夫。スタッフが大声を出さずに助かった。



②おおつエコフェスタ 2025 (7月27日) 参加：5名

「プラごみスピードクイズ」を出展。
開始から終了までに、1回25分のプログラムを10回実施。
大人・子どもあわせて、106名に参加してもらえた。



1,000人以上の来場者の熱気や音楽などで混雑し一日中賑やか中で、パワーポイントで1回が20問ほどのスピードクイズ出題をし、参加者はAとBの札から2択の回答をする。はじめにポイ捨てプラごみによる環境や海洋汚染の話を追加し、市民一人ひとりがプラごみを減らすためにどう行動したらよいかを、クイズをヒントにして、SDG s と 3 R の視点で考えてもらうことをめざした。クイズの最後には、参加者全員に、3Rカードを貼り付けた丸うちわを配り、裏面にプラごみを減らすための「わたしのおやくそく」をそれぞれ書いてもらった。その際、スタッフと子どもたちとの間でやりとりができたことが印象的だった。気温が高い日だったので、丸うちわもまあまあ好評であった。



③第18回 水辺の匠 (11月9日) 参加：6名

「プラごみスピードクイズ」を出展。
朝からの雨降りのため、会場への参加者も少なかった。参加者は34名。
プラごみクイズのブースへ参加した人数も、少なかった。クイズの数を減らし1回20分にし、他のエコイベントと同様にスクリーン・プロジェクタとマイクを使用。スタッフ全員が1回ずつクイズを5回実施。それぞれの個性が活かされていた。
SDG s と 3 R にふれた話を付け加え、最後に参加者には用意した3Rカードの裏面に、それぞれのプラごみ宣言をかいてもらった。それを提示した子どもたちに、参加賞としてモールのマスコットや木のキーホルダーを差し上げた。今回のプラごみクイズでは、こども達だけでなく大人も興味をもって参加して楽しんできた。中には、マイクロプラスチック等に関心お持ちの方がおられた。



5. シンポジウム「廃プラスチックごみ問題の解決にむけて」開催

廃プラごみ問題解決にむけたヒントや家庭ごみ分別の課題を探るため、プラスチック開発の研究者、廃プラ問題に精通した専門家から話を聞き、市民と共に家庭ごみの分別はどうあればよいかを正面から話合うきっかけとなるシンポジウムを当会主催で開催した。カーボンニュートラルを念頭に地域の安定したエネルギー確保と資源循環の体制と、家庭ごみの分別と処理はどうあるべきかを市民と協議するとを提案し、提言のまとめをめざした。

日時：12月13日（土）13：30～16：00

会場：大津市生涯学習センター視聴覚室

参加者：45名

参加費：300円（資料代として）

内容：第1部 基調講演

- ・講演 1 「廃プラ問題を解決するための工学的技術開発の視点」
徳満勝久 氏（滋賀県立大工学部材料化学学科教授・先端工学研究所所長）
滋賀県立大学廃棄物マスターズの活動報告
- ・講演 2 「廃プラリサイクルの表と裏⇒廃プラはごみ発電燃料に！」
鍵谷 司 氏（環境計画センター会長代行、技術士（衛生工学・建設・環境））
- ・講演 3 「家庭ごみの処理について、問題点は生ごみとプラスチックの処理！」
竺文彦氏（元龍谷大学環境ソリューション学科教授・おおつ環境フォーラム理事長）

第2部 意見交換

* コメンテーターからの意見・感想

- ・吉本美枝子 氏（NPO 法人・おおつ環境フォーラム事務局長）
- ・木下 茂樹 氏（多賀町町会議員・元東近江・リバーセンター所長）
- ・田中 武範 氏（大津市プラスチックごみ削減勉強会メンバー）

* 参加者からの質疑応答と意見交換（質問票を中心に）



* 内容の詳細は、「みんなで、大津」の「2025年 シンポジウム報告」をご参照ください。

6. 連携づくり

- | | |
|-----------------------------------|-------|
| ①環境フォーラム市民塾「びわ湖とプラごみ」（1月18日） | 参加：4名 |
| ②彦根市のごみ問題の話を聞く会（3月5日）会場：草津市民交流プラザ | 参加：4名 |
| ③草津エコフォーラム（7月8日）会場：草津キラリエ | 参加：1名 |

- ④京都技術士講演会・鍵谷氏「廃プラスチック問題」(7月19日) 参加：3名
- ⑤みんなのBIWAKO会議「世界湖沼の日制定記念フォーラム」(8月27日) 参加：5名
- ⑦MLDG協働テーブル(1月22日)(8月27日)(9月10日) 参加：1名
- ⑧廃棄物減量推進課訪問(10月27日)「製品プラ回収実証実験結果について」参加：5名

3. 川ごみ回収活動

- ①千丈川清掃(3月24日) 参加：4名
- ②高橋川清掃(3月25日) 参加：1名(リバプレ隊と合流)
- ③長沢川清掃(3月26日) 参加：2名

6. 親睦会

リバプレ隊主催「近江八幡の水郷めぐり」(4月18日) 参加：4名